

平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆最優秀賞（3作品）◆

【小学生の部】

「友だちと げんきいっぱい 歩こうよ」

小林 悠希さん（栃木県 那須塩原市立塩原小学校）

【中学生の部】

「道きれい そんな所は 人きれい」

高橋 昂太郎さん（秋田県 湯沢市立皆瀬中学校）

【一般の部】

「ありがとう 生きる力を くれる道」

會田 誠一さん（神奈川県 大和市）

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「道きれい そんな所は 人きれい」を今年度の代表標語とします。

◆優秀賞（6作品）◆

【小学生の部】

「あんぜんに あるけるみちは たからもの」

壱岐 心音さん（宮崎県 宮崎市立恒久小学校）

「この道を 歩けば心も 歩き出す」

櫻田 歩維さん（神奈川県 横浜市立都岡小学校）

【中学生の部】

「道渡り ほんの一礼 あたたまる」

加茂 三幸さん（佐賀県 伊万里市立南波多中学校）

「ぴかぴかの 道路にひびく 笑い声」

樹下 あいさん（佐賀県 佐賀龍谷学園龍谷中学校）

【一般の部】

「この道で はじまる私の 物語」

吉野 信幸さん（埼玉県 川越市）

「あいさつも お歌も靴も 跳ねる道」

川村 雅恵さん（神奈川県 横浜市）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



3部門とも、完成されたものが多かったように思います。よみ易く、やさしい気持ちになれて、どれもに未来が感じられました。大笑いが止まらないのも大好きですが、ちょっと捻りのある珍しいものが最優秀賞になりましたね。ゴミ拾いがライフワークの私には嬉しい作品でした。さて、締め切り後に熊本地震が起き、誰もが道路整備の重要性を再確認させられることとなりました。審査時はフラットな気持ちで選んだつもりですが、どれもがつながっているように感じられ、胸が熱くなることもしばしば。日常の大切さ、当たり前にあることの有り難さ。多くの人の作品にあったように、笑顔と言葉を掛け合って、みんなでいい日本を作っていきたいですね。

《やすみ委員》

最終選考まで残った作品は、全体的に言葉並びの良さに加えてリズムの良さを楽しめるものが多かったようにお見受けしました。多くの人々の心へ響くようにと考えられた結果なのだと思います。みなさんの作品から、道路を色々な角度から見つめることが出来ました。



《吉岡委員》



道というと、あって当たり前と思われている存在なのでしょうが、それに対してよくこれだけの言葉（感性）が、と思うほど多数の作品が寄せられました。応募がきっかけとなり身近な「道」が生き始め、街の景色が今までとは違って見えてきたのではないのでしょうか。標語が人々の目に触れて、その波紋が広がりますように。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 「友だちと げんきいっぱい 歩こうよ」

- 三好委員 文字の向こうから飛び出してきそうな勢いと笑顔を感じる作品ですね。優秀賞と最優秀賞を拝借して一文。「安全に歩けるたからものの道を」「おたがいに譲る心で」「歩けば心も動き出し」「友達と元気いっぱい歩けるね」。なんとも幸せな生活が見えてきました。私もこの中に混じって歩きたいです♪
- やすみ委員 毎日の通学路をイメージして作った標語だと受け取れます。明るくかわいい雰囲気伝わってきて、こちらまで笑顔にさせてくれますね。”歩こうよ”という呼びかけのような言葉選びも、メッセージが投げかけられてくるようでいいポイントになっていると感じました。
- 吉岡委員 子供にとって道を歩くことは生活であり、遊びであり、親、兄弟、そして友達とのつながりを深める大事な行為に違いありません。最優秀作は、そんな元気いっぱいの子供心が、弾むように表されています。他の優秀作品にもこのトーンが共通していて、だからこそ、大人はいい道、安全な道を守ってあげたいと願います。

中学生の部 「道きれい そんな所は 人きれい」

- 三好委員 一瞬、見た人の心をドキッとさせるものの、プッと笑わせてしまう比喻がとても効いています。今まであまりなかった「きれい」の使い方が印象的で、きっと話題になりますね。クリーンアップに精を出している方々の強い味方にもなりそうです。優秀賞は、どれも未来や夢や温かさを感じる作品でした。
- やすみ委員 すっきりとしたスタイルの作品で、一度目にしただけでもしっかりと印象に残りそうです。道の美化が行き届いている地域の、そこに暮らす人々への敬意や感謝の気持ちが見えてきました。道と人の姿を重ねることにより、共感のできる具体的な表現になっていますね。
- 吉岡委員 道には人の影が映し出され、ぬくもりがある、そんな感覚をとらえたこの標語には中学生らしい瑞々しさが表されています。小学生の「歩く道」に対して、「住む人の道」というような成長が感じられます。優秀作品の「道渡り・・・」にもその優しさが見られます。

一般の部 「ありがとう 生きる力を くれる道」

- 三好委員 「生きる力をくれる」のフレーズに、ほろり。明日何が起こるか分からないのが人生ですが、ほんとうに道が与えてくれる力は膨大ですよ。直球で多くの人心に響きそうです。他の作品も、さすが長い間道と対話してきた一般作品。跳ねながら未来へのスタート！というイメージが感じられ、どれも素敵でした。
- やすみ委員 力強さと思いやり、このふたつが同時に感じられる標語だと思います。大小さまざまな道を思い浮かべることができますね。人それぞれの道の情景が広がる作品ではないでしょうか。
- 吉岡委員 ストレートに道の力が謳われた作品で、文字どおり、前へと進む生命のほとぼりが感じられます。「ありがとう」の言葉によって、感謝だけでなく人生へのエールも伝播して来るようです。他のふたつの優秀作品もストーリーとリズムが生きています。